

読書推進運動



公益社団法人
読書推進運動協議会

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-32
出版クラブビル6階
TEL 03(5244)5270
FAX 03(5244)5271

発行人 佐々木 泰
編集人 片岡 伸子

会員の購読料は
会費の中に含まれる

No.676

★「こどもの読書週間」開催について(2・3頁)

★「伊藤忠記念財団子ども文庫助成事業」応募要項(5頁) 定価 60円



喜ばれても、拒絶されても、 本を手渡すことから

「こどもの読書週間」によせて

一般社団法人日本国際児童図書評議会
会長
翻訳家

うのかずみ
宇野和美

日本国際児童図書評議会(JBBY)は、国際児童図書評議会(IBBY)の日本支部として1974年に誕生しました。

IBBYは、第二次世界大戦後のドイツで、イエラ・レップマンというひとりのジャーナリストが「この混乱した世界を正すことを、子どもたちからはじめましょう」と言って、子どもたちに本を手渡したことに始まります。

空腹も悲しみも忘れて、物語に夢中になる子どもたちの姿に、レップマンは本の力を目の当たりにしたのでしよう。「本を通じて世界平和を」「すべての子どもに本を」という理念をもとに、その活動はIBBYへと発展しました。IBBYは、戦争や政情不

安や災害などにより困難な状況にある子どもたちを本で支援する「チルドレン・イン・クライシス」という取り組みを長く続けています。JBBYも東日本大震災のあと、他の団体とともに本を通じた支援に関わり、2017年からは「希望プロジェクト」として、子ども食堂や、困難を抱えた子どもたちがいる場所、海外から日本に避難してきた人びとのいる場所の要請にこたえて本を届けています。

肝心なのは、ただ本を送りつけるわけではないことです。本と子どもをつなぐ人がいてはじめて、本は力を発揮します。能登半島地震の被災地からも求めがあれば、JBBYはどんな本がいかを共に考え、応じてまいります。

本と食べ物はどこか似ています。必要だからと言って、無理やり口に入れても、相手は嫌がったり拒否したりするでしょう。かと思うと、思いがけないきっかけで食べるようになることもあります。お菓子や果物など、すすめなくて自分からいくらかでも口に運ぶものがある一方で、だからといってそればかりというわけにはいかず、健康のためにはバランスや質も気になります。

4月2日はアンデルセンの誕生日です。IBBYはこの日を「国際子どもの本の日」と定め、記念するポスターを毎年支部のちまわりで制作しています。今年も創立50周年を迎えるJBBYが担当し、「物語をつばさに想像

を力にあらたなはじまりへ」というフレーズの入ったポスターを世界各地に発送しました。日本でも現在各地の図書館で掲示されています。

また、5月から創立50周年記念連続講座「日本の国際アンデルセン賞受賞作家たち」が始まり、11月に「記念シンポジウム」が開催されます。秋には国際アンデルセン賞にちなんだ展示の企画があり、「50年史」や「ブックガイド」の出版も予定しています。

JBBYは権威ではなく、子どもと本を大切に思う人びとの集まりです。50周年行事が、子どもたちにとどのような未来を手渡したいのかを共に考え、平和を求め、多様で豊かな出版文化を支えることにつながるよう願っています。

おいしい食べ物をすすめるように、本をさしだしていただらと思います。喜ばれればよし、拒絶されればそれもありで、「いいな」と思う本を、てらいなく、気ばらず、根気よく、子どもたちに手渡していきたいものです。



ワクワク ドキドキ…

2024・第66回 こどもの読書週間 4/23 ~ 5/12

本を読む楽しさ、喜びを 子どもたちと味わう週間に！

公益社団法人 読書推進運動協
議会は3月中旬、「2024・第
66回 こどもの読書週間」を開催
するにあたっての協力お願いを、
全国の読書推進運動協議会、公共
図書館、報道機関、関係者などの
みなさんにお送りいたします。

今回の標語は721点の応募作
から選ばれた「ひらいてワクワク
めくってドキドキ」。作者の春野
双葉さんより、「本を開くときの
高揚感を思い出しながら書きまし
た。同じ本を読んでも、人によつ
て感じることはさまざまです。ひ
らいてワクワク、めくってドキド
キ、とじたらどんな音だったのか、
それぞれの音を鳴らしてほしいな
と思います」と、標語にこめた思
いを教えてもらいました。ワクワ
ク、ドキドキだけでなく、ザワザ
ワやときにはシーンなど、本を読
みながら心の音を、声に出してみ
んなで共有するのもおもしろいか
もしれません。

ポスターは今年も、絵本作家
ユニットのザ・キャンピカンバ
ニーさんの書き下ろしイラスト

です。本をいっぱい抱えた女の
子、本から聞こえるワクワクドキ
ドキにじつと耳を澄ませているよ
うな、一歩踏み出そうとしている
ような……。読む静けさと、本
に背中を押されて動き出す一瞬
がギュッとつまつたようなポス
ターです。ぜひ、ワクワクする本、
ドキドキする本と一緒に、ご紹介
してください。

当協議会のホームページの素材
集では、例年同様にポスターと
マーク、標語をあしらつたロゴ(タ
イトル)の画像データと、ポップ、
しおり、ブックカバーのPDF
データを2月末より順次、掲載し
ております。ご活用ください。な
お、今年のポスターもとても鮮や
かな発色のため、ホームページ上
では十分に色を再現することがむ
ずかしく、また、広報紙などでご
紹介すると印象が変わるかと思
います。素材集、データだけではなく、
ぜひ、ポスター現物もあわせてご
掲出、ご活用をお願いいたします。

ポスターは、3月中旬以降順次、
公共図書館(都道府県立図書館へ

送付)、学校図書館(全国学校図
書館協議会を通じて送付)、書店
(日本出版次協会を通じて送付)

読書推進運動協議会会員、後援団
体、関係団体などへお送りします。
残部もごいりますので、希望者は
事務局までお申しつけください。

【読書推進運動協議会 事務局】

TEL 03-5244-5270

FAX 03-5244-5271

e-mail info@dokusyo.or.jp

(ドメインは「dokusyo」です。

ご注意ください)

ホームページ

<http://www.dokusyo.or.jp>



昨年の「こどもの読書週間」の様子
(栃木県さくら市氏家図書館)

2024・第66回「子どもの読書週間」開催についてのお願い

公益社団法人 読書推進運動協

議会は、恒例の春の行事「子どもの読書週間」を本年も主催いたします。

新型コロナウイルス感染症の影響もようやくうすれ、昨年度「子どもの読書週間」行事主催者数も以前の水準に戻りました。しかし、

本年1月に発生した能登半島地震では、多くの人々の生活が脅かされ、また、被災地域の中学校が集団で一時避難を余儀なくされるなど、子どもたちの学びと読書環境にも大きな影響をおよぼしています。「子どもの読書週間」が災害復興時に読書を通じて子どもたちにとって寄りそえるかを、あらためて考えるきっかけとなることも、望みます。

今年の標語は「ひらいてワクワクめくってドキドキ」です。期間中関係各位によって全国的に実施される行事は、この標語を中心に展開されることとなります。

幼少のときから書物に親しみ、読書の喜びや楽しみを知り、ものごとを正しく判断する力をつけて

おくことが、次の世代を担う子どもたちにとつて、どんなに大切であるかはいまだに申しあげざるまでもありません。本を読み、読んで考え、考えて行動する子どもたちが育つならば、青少年に関する多くの問題点も解決されるのではないのでしょうか。

「子どもの読書週間」は子どもたちに、よい本やよい雑誌に親しむことをすすめ、読書の楽しみや喜びを知らせ、正しい読書の習慣を身につけてもらおう好機です。そして同時に大人にとつては、子どもの読書がいかに大切なことか、よい本や雑誌を手渡すためにはどういう努力をしたらよいか、ということについて考える機会でもあるといえましょう。

公益社団法人 読書推進運動協議会では「子どもの読書週間」のテーマとして『家庭・地域読書のすすめ』をとりあげ、「家庭・地域に子ども文庫をつくらう」「親子読書を育てよう」など、家庭・地域における、子どもの読書推進に力をそそいできました。

家庭における読書環境の整備は、以下の3点がたいへん重要です。

(1) 幼児には父母が本を読んで聞かせてあげる。

(2) 子どもたちの身近にいつも本を置くことを考え、毎日たとえ短い時間でも本を読むことをすすめ、本を読むのを聞いてあげる。

(3) そして大切なことは、父母みずからが読書する姿を、子どもたちの眼にふれさせる。

やがて、そこに本を中心とした話題が生まれ、親子の対話に発展することは明らかです。

地域の公共図書館、公民館、PTA、学校図書館、幼稚園・保育園、子ども文庫・地域文庫のボランティアなどによる、子どもたちへの読書指導、読書普及活動、これらががっちり手を組んでいくならば、正しい判断力のもとに行動できる青少年の育成に、貢献できることを確信しています。
なお、2001年12月12日に

公布されました「子どもの読書活動推進法」により、「子どもの読書週間」の始まりの日である4月23日が、「子ども読書の日」と制定されております。「子どもの読書週間」とともに、「子ども読書の日」もおおいに広めていただきたいと思えます。

記

名称 2024・第66回
子どもの読書週間

主催 公益社団法人

読書推進運動協議会

(主要構成団体) 日本書籍出版協会、日本雑誌協会、教科書協会、日本出版取次協会、日本図書館協会、全国学校図書館協議会、日本書店商業組合連合会

後援 文部科学省、日本新聞協会、NHK、日本民間放送連盟、日本PTA全国協議会

全国市町村教育委員会連合会

期間 4月23日から5月12日まで

標語 ひらいてワクワクめくってドキドキ

《行事内容》

●ポスターおよび広報文書配布(公共図書館、全国小・中・高等学校図書館、有力書店、関係出版社、報道機関など)

●その他、都道府県の読書推進運動協議会、関係各団体の協力を得て、各種行事実施の推進

《各種機関へお願いの行事内容》

●公共図書館、公民館、小・中・高等学校の学校図書館などにおいて「子どもの読書研究会」「子ども読書のつどい」「親と子の読書会」「大人による子ども本研究会」「子どもの読書相談」「児童図書展示会」「児童文学作家による講演会」「児童図書出版社との懇談会」などの開催。「読書感想文・感想画コンクール」の実施

●都道府県の読書推進運動協議会による都・道・府・県単位の「子ども読書大会」などの開催

●出版社、新聞社、放送局、文化団体などによる、被災地域、児童養護施設、矯正施設などへ向けた「図書・雑誌の寄贈運動」の実施

会

■「子どもの読書推進会議」総会

「絵本ワールド」継続、新規開催を軸に事業を進める

2月6日(火)、東京都千代田区の出版クラブビルで「子どもの読書推進会議2023年度 第2回総会」が、野間省伸代表、竹下晴信、野上暁、両副代表ほか運営委員多数の出席のもと開催された。

事務局より「2023年度上半期収支計算書」「2023年度絵本ワールド事業報告」および「2024年度絵本ワールド事業計画」「上野の森親子ブックフェ

スタ2024 決算報告」について報告、説明があり、討議の結果承認された。

「絵本ワールド」事業についてはコロナ禍を経て開催減少の傾向であったが、2024年度においては現時点で新規も含め4件の開催が予定されている。

「上野の森親子ブックフェスタ2024」については、運営委員会を構成する出版文化産業振興財



「上野の森ブックフェスタ2023」の様子

団、読書推進運動協議会より、昨年の催事のスタイルを継続し、5月4日(祝)〜5日(祝)の2日間開催とするとの報告があった。

議事終了後に各参加団体からの活動報告があり、最後に2024年度の会議予定を確認して閉会した。

創立50周年を記念して 国際ポスターをJBBYが作成



国際子どもの本の日ポスター

国際児童図書評議会(IBBY)加盟国が持ち回りで作成する「国際子どもの本の日ポスター」の担当国を、30年ぶりに日本国際児童図書評議会(JBBY)が務めた。

国際アンデルセン賞作家の角野栄子さんのメッセージと、スロバキア在住の絵本作家の降矢ななさんのポスターが各国語に翻訳されて、IBBY加盟国に配布された。

日本国内では2月下旬に公共図書館などに配布されている。JBBYは、4月30日までこのポスターの写真をSNSに投稿するキャンペーンを実施している。詳細は <https://jbbj.org/> まで。

■「絵本ワールドinふくしま」開催

目の前でお出しができる？ バラエティ豊かな実演が大人気

「絵本ワールドinふくしま2024 絵本と作者と子どもの広場」が2月10日(土)、福島県須賀川市の須賀川市民交流センター(3階)で開催された。

会場では絵本の販売と、子どもたちむけて多彩なコンテンツが実施された。絵本作家講演会として、すし職人でもある岡田大介さんが実際に魚をさばき、すしになる過程を実演。よしながこうたくさんは自身の著作『給食番長』を読み聞かせた後、一緒に絵を描く体験型のパフォーマンスを行うなど、催事のタイトルどおり、子どもたちと作家が楽しく交流した。

絵本の読み聞かせも、絵本専門士ゆうくんのおはなし会など数多く行われ、東北の2月にしては暖かい天候と相まって、子どもたちの笑顔と歓声があふれる1日となった。

ワークショップ「KURUMI」では、簡単にミニブックを作ることでできるキットを使って本の製造工程を疑似体験。1枚の紙を折っていくことで書籍の1折16ページができるという説明を、参加した子どもたちは熱心に聞き、その本文用紙にカラフルな表紙の厚紙を貼りつけて、1冊の本を完成させていった。

須賀川市は「特撮の神様」といわれる円谷英二の出身地であり、駅前通りには歴代ウルトラマンやさまざまな怪獣たちの像がある。会場の市民交流センターには円谷英二ミュージアムも併設されていて、こちらにはゴジラの像も。子どもたちにとっては、絵本ワールドにプラスするお楽しみだったかもしれない。



岡田大介さんの実演に 子どもたちも夢中!

伊藤忠記念財団・2024年度 子ども文庫助成事業

贈呈先候補募集について

公益社団法人 読書推進運動協議会は、1975年以来、公益財団法人 伊藤忠記念財団(理事長・鈴木善久)の「子ども文庫助成事業」に賛同し、毎年、助成贈呈先の案件募集の告知と事前調査を行っています。各道府県の読書推進運動協議会、全国の公共図書館をはじめ、ご協力をお願いする機関のみならず、文庫や実演活動を行っている個人・団体へご宣伝のほどをお願いいたします。

○実施要領(抄)

1、助成の対象

子どもたちに本を届けることを目的に読書啓発活動を行っている内外の団体・施設・個人で、今後も活動を継続する意志のある方。

(I)子どもの本購入費助成(購入費助成) Ⅱ子ども文庫、読み聞かせ団体、子ども文庫連絡会、子ども食堂(文庫併設)、学習支援ボランティア、外国にルーツのある子どもを対象とした活動など。3年以上の活動実績があること。

(II)病院・施設子ども読書活動費助成(病院・施設活動費助成) Ⅱ小児病棟、障がい児施設、養護施設などの子どもたちに対し、読書活動を行っているボランティア団体や個人および施設、非営利団体。

※収益事業を本業とする法人、公

共機関は応募不可。ただし、(II)と(V)は一部公共機関も応募可。

2、助成の概要

(I)購入費助成Ⅱ一律30万円を助成。(A)Bのプログラムよりひとつ選択。(A)児童書・絵本などの書籍、紙芝居、人形劇、パネルシアターなどの購入に15万円以上使用する。その他の費用(講習会の開催費・参加費、書架・ブックコートフィルム・紙芝居やパネルシアターの舞台など備品購入費)は15万円まで。(B)伊藤忠記念財団が指定する「指定研修会」の参加費、交通費・宿泊代、出張講師派遣の講師謝礼・講師交通費・会場費などに全額を充当。「指定研修会」は応募要項を参照。「指定研修会」以外の研修会の自主開催については、応募者が文庫連絡会やそれに準じる組織であり、応募時に研修会内容、予算を明示することを条件に対象とする。

(II)病院・施設活動費助成Ⅱ(I)(A)に加え、障がいがある子どもたちに対する読書支援機器などの購入、およびバリアフリー図書作成のための費用として一律30万円を助成。

(III)100冊助成Ⅱ伊藤忠記念財団が選書した小学校低学年向けセット」

「小学校中学年向けセット」「小学校高学年向けセット」「乳幼児セット」(各セット100冊、約15万円相当)より希望の1セットを選択。または、4セットに2000年以降に出版された本を中心とした150冊リストを加えた550冊より任意で100冊を選ぶことが可能。

(IV)功労賞Ⅱ賞状、記念品、副賞(30万円)

(V)特別支援助成Ⅱ一律30万円を助成。学校図書館の蔵書となる児童書、絵本、図鑑などに加え、バリアフリー図書や読書支援機器の入手・作成のための費用にも充当可能。図書の購入・作成費として15万円以上を使用すること。その他の費用(書架・読書支援機器など備品)は15万円まで。バリアフリー図書作成のためであっても、参考書、問題集、教科書等、教材としての役割を主とする書籍は原則対象外。

3、応募選択Ⅱ助成のなかのいずれかひとつを選択。

4、助成先決定までの流れ
(1)公益社団法人 読書推進運動協議会ほかによる事前調査。
(2)公益財団法人 伊藤忠記念財団職員による現地訪問(購入費助成、

病院・施設活動費助成、特別支援助成の国内応募者を予定)。
(3)選考委員会で助成先候補者を選考。

(4)伊藤忠記念財団理事会において助成先対象者を決定(12月中旬)。
5、決定の通知Ⅱすべての応募者に、結果を画面にて通知します。

●応募要項は左記のサイトよりダウンロード可能
伊藤忠記念財団
<https://www.ite-zaidan.or.jp/>
読書推進運動協議会
<http://www.dokusyo.or.jp>

●子ども文庫助成応募書類の提出期間
2024年4月1日～6月20日(消印有効)

●応募にあたっての問い合わせ・書類の提出(送付)先
〒107-0061
東京都港区北青山2-1-1
公益財団法人 伊藤忠記念財団
助成事業部

TEL 03-34497-2651
FAX 03-34470-3517
メールアドレス
bs-book@ite-zaidan.or.jp

第69回 青少年読書感想文全国コンクール

作品を自分の体験を結びつけ
未来へつなげるきつかけに

2月2日(金)、「第69回 青少年読書感想文全国コンクール」(主催 公益社団法人 全国学校図書館協議会/毎日新聞社)の表彰式が、東京都千代田区の経団連会館で開催された。表彰式は関係者に向けてのオンライン配信も行われた。

今年、全国の小学校・中学校・高等学校など2万3832校(海外日本人学校含む)から、265万4235編の応募が寄せられた。そのうち、最優秀作品5編、優秀作品30編を含め計112編の入賞作品などが表彰された。



今回の受賞者たちの記念撮影 (写真提供: 毎日新聞社)

席され、「本を読み感想文を書くことは、しっかりと読み解く力、深く考える力、文章で表現する力を育てる貴重な経験です」と、ことばを贈られた。

中央審査会経過報告では、応募作品全体を通じ、「読書体験と生活体験を結びつけ、未来への変容を綴った作品が高評価を集めた」一方、「正しい日本語として表記する大切さとそのための指導の必要性を感じた」と課題も述べられた。

式には、秋篠宮皇嗣妃殿下も臨み、中村哲さんの生涯を描いた『中村哲物語:大地をうるおし平和につくした医師』(松島恵利子 著/汐文社)の感想文「心で世界を見る」で小学校高学年の部・最優秀作品を受賞した藤野結大さん(石川県珠洲市立飯田小学校5年)。



受賞作品を朗読する藤野結大さん (写真提供: 毎日新聞社)

受賞作品の朗読は、アフガニスタンで井戸を掘り、用水路を作った中村哲さんの生涯を描いた『中村哲物語:大地をうるおし平和につくした医師』(松島恵利子 著/汐文社)の感想文「心で世界を見る」で小学校高学年の部・最優秀作品を受賞した藤野結大さん(石川県珠洲市立飯田小学校5年)。

『ラブカは静かに弓を持つ』(安壇美緒 著/集英社)の感想文で高等学校の部・最優秀作品を受賞した辻内凜さん(岐阜県立岐阜高等学校1年)は、小学生のころから本コンクールに参加しており、「これまで地域予選すら残らなかったのに、驚いています。読書は私たちに無限の可能性を与えてくれます。そして、筆者と交流ができ、ことばを読むうちに著者との隙間が埋まります」と受賞のことばを述べた。

優良読書グループの歩み (3)

2023年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。(順不同)

絵本読み隊

代表者 片倉 逸子

山形県東置賜郡川西町
(推薦) 山形県読書推進運動協議会

川西町立小松小学校は、作家・劇作家 井上ひさし先生の母校です。井上先生は14才まで川西町(旧小松町)で育ちました。その母校で読み聞かせを毎月行っています。

小松小学校では毎月1回、朝の「おはなしシャワー」で、朝学習の時間帯に地域の人たちを招いた読み聞かせの会を行っています。その時間帯に私たち絵本読み隊は交替で絵本や児童書の朗読などを行っています。会員は主婦や仕事を退いた人、図書館の司書などで、絵本が大好きな人たちの集まりです。年度はじめに小学校から予定表が届くと全員が集まり担当割りをし、同時に研修会として、新しく出た絵本、人気のある絵本、以

前読んで好評だった絵本などの情報交換をします。

会員に町立図書館の司書が加わっていることは当会の強みです。図書館が所蔵している絵本の種類や児童書の幅の広さを知ることができます。また司書の見え、読み聞かせに向いている絵本かどうか、朝の時間にとつたり絵本にどんなものがあるか、人によつての読み方のクセがある場合はどうしたらよいか、また逆に読



井上ひさしさんの後輩たちへ読み聞かせ

みクセを活かした絵本があるので
はないか：などの気づきを得るこ
とができ、会員の集まる場が常に
研修の場になっています。

井上ひさし先生の母校だからで
はないのですが、先生のことば「子
どもを本嫌いにならない方法のひと
つは、本の感想を書かせない、聞
かないことだ」を大事にしていま
す。読み聞かせのあと、「感想が
言える人？」と問う担任の先生も
いますが、私たちはなるべく感想
は聞かず、しばらく物語の余韻に
浸ってね：そのような思いで毎回
教室をあとにします。子どもたち
から自然に出る「おもしろかった
ね」のことば、それだけで私た
ちの気持ちもはげばれとします。

おはなしの会 ムーミン

代表者 平間恵美子

山梨県南アルプス市
〈推薦〉
山梨県公共図書館協議会
読書推進研究部会

1977年4月に、若草町総合
会館のオープンと同時に中央公民
館図書室が開設され、ここで手話
講座に参加していたメンバーの
から絵本や読み聞かせに関心のある
数名が図書室に集まり、「おはな

しの会ムーミン」始めました。は
じめは、メンバーの親子が集まり、
おたがいに読み聞かせをしあつて
いましたが、徐々に、ペープサー
トやエプロンシアターなどを作る
ようになり、本格的な「読み聞か
せの会」らしくなってきました。

町村合併で2003年4月に念
願の南アルプス市立わかき図書
館が開館し、この会も正式に図書
館所属のボランティアとなりました。
メンバー入れ換えもあり、現
在4名と少数ですが、創立当初か
らのメンバーが2名おり、年期の
入った充実した会なのではと自負
しています。また、研修会への参
加、他団体との交流なども積極的
に関わり研修を重ねています。

ここ数年はコロナ禍で活動休止
を余儀なくされましたが、5類に
なったことで、学校訪問などおは
なし会のオフアールも入りはじめ、
子どもたちと参加型のおはなし会
ができるようになり、メンバー一
同、大いに喜んでいるところです。
子どもが好き、絵本が好き！か
ら始まった会ですが、おはなし会
をする中で、私たちも勉強をさ
せていただいています。地域で
の活動は充実感を得ることがで
き、今後の糧にも励みにもなつて
います。新刊書のリサーチや、最

近の世の中の様子に乗り遅れない
よう、さまざまな研鑽を重ね、ア
クティブに取り組んでいきたいと
思っています。

微力ながらも、「絵本の世界と
楽しさを広めていく」その一端を
担えたら、そして、活動を通して、
仲間や地域のみなさまとともに楽
しいときを過ごしていけたら、そ
れこそが私たちの幸せと、この先
もますます充実した会になること
を願っています。

おはなしの泌泉(いずみ)

代表者 水井 キミ

福岡県田川郡糸田町
〈推薦〉
福岡県読書推進運動協議会

私たちは、糸田町読書ボラン
ティア「おはなしの泌泉」です。
おはなしの泌泉は、昔地元へ浄ぎ
水が出た「泌(たぎり)」にちな
んで名称を定めました。

2003年、糸田町図書館発足
と同じ年に、子どもたちに絵本の
読み聞かせを通じて読書に親し
み、豊かな心を育ててほしいとの
思いで始めました。糸田町図書館
に連絡場所を置き支援を受け、月
1回定例会を開催、読書活動関連



絵本だけでなく、地元の歴史も
子どもたちへ手渡して

の研修に参加、質の向上に努めて
います。現在会員は7名です。

絵本を題材に大型紙芝居10
作品を作りました。糸田の歴史に詳
しい方々の指導で大型紙芝居『泌
泉(たぎり)』を作り、小学3年
生の読み聞かせの時間に紹介して
います。この大型紙芝居を基に
2011年、教育委員会から絵
本『たぎり』を発行、2013年
に、子どもたちに自分の町をもつ
と知ってほしいと『たぎりII』も
白費で発行しました。

大型紙芝居は会員の小さな力を
集めて作りました。子どもたちに
「わあ！大きな絵！」「色がきれ
い！」「だれが描いたんですか？」

など、感動してもらっています。
毎回の読み聞かせもしつかりと
練習し、リハーサルを行い、当日
に備えます。終了後は定例会で反
省を話しています。テーマソング
「かえる」は、糸田町のキャラク
ターにちなんだ「かえるの合唱」
の替え歌で、子どもたちにとても
喜ばれています。町内で子どもた
ちに会うと「読み聞かせのおぼ
ちゃん」と声をかけてもらえ、と
てもうれしいです。

年間の活動は、①小学校の国語
の授業内で1年生から6年生まで
年12回、大型・中型紙芝居、大型
絵本、手遊び、歌を実施 ②糸田
町図書館で毎月第3・第4土曜日
に読み聞かせ ③糸田町図書館の
行事参加(子ども読書の日フェ
スティバル(4月)、「理科読(7
月)」「図書館まつり(10月)」「ク
リスマス会(12月)」「ブックスタ
ー(年6回)」「ミニビブリオパ
ートのサポート(小学校授業にて)」
④学童で年2回の読み聞かせ

続けることができたのは、一人
ひとりの考え方や思いが同じ方向
を向いているから、そしてなによ
りも、私たちが楽しんでること
です。年齢的にも50〜90歳と幅が
あります。今後の課題は、思いを
同じくする人材の確保です。

■日書連「春の読者還元祭」開催

キャンペーンサイトを紹介します
しおりを購入者へ配布

日本書店商業組合連合会(日書連)は、4月22日(月)から5月13日(月)まで、「春の読者還元祭2024」を全国の書店(「還元祭実施書店のみ」)で開催する。

今年で4年目となる「還元祭」は、春と秋の「こどもの読書週間」「読書週間」時代の恒例行事として定着してきている。

今回も実施書店では、書籍・雑誌を購入した読者に、キャンペーンサイトのQRコードが入ったしおりを呈呈する。読者はキャンペーンサイトにアクセスし、必要事項を記載して応募。抽選で図書カードネットギフトが当たる(1万円分100本、3000円分200本、10000円分1400本、総額300万円)。

■「教科書の日」ポスター

教科書で学ぶ楽しさを
ポスターに



今年の「教科書の日」ポスター

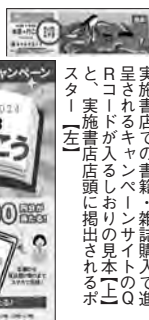
一般社団法人教科書協会は、4月10日の「教科書の日」啓発ポスターを作成し、学校、図書館、教科書取扱書店などに配布、掲出を依頼している。

今年のキャッチフレーズは「めぐるたび学ぶ楽しさめぐる旅」。同協会が「教科書の日」10周年を記念して実施した「教科書川柳コンテスト」の一般部・受賞作品を採用している。

ポスターの送付希望、「教科書の日」についての詳細は、教科書協会まで。

●教科書協会

<https://www.textbook.or.jp/>



数回・複数枚受け取るメリットを明確に打ち出した。
「春の読者還元祭」の詳細は日書連ホームページを参照。実施書店名は4月に告知される予定。
●日書連ホームページ
<https://www.n-shoten.jp/>

事務局報告(2月)

- ・2日 全国学校図書協協会会ほか「第69回 青少年読書感想文全国コンクール」表彰式出席(オンライン)
- ・6日 2023年度子ども読書推進会議第2回総会開催
- ・6日 文部科学省「子ども読書の日」ポスター 出来
- ☆7日 機関紙「読書推進運動」675号 入稿
- ☆7日 「こどもの読書週間」ポスター 初校出
- ☆8日 機関紙「読書推進運動」675号 責了
- ・8日 〓とよたかずひさんと「子ども読書の日」ポスター打ちあわせ
- ・10日 〓絵本ワールドinふくしま2024」出席(須賀川市民交流センター)
- ☆14日 「こどもの読書週間」ポスター 再校出
- ・19日 国立国会図書館国際子ども図書館「令和5年度子ども本と読書に関する懇談会」出席
- ☆21日 2023年度 第3回理事会開催
- ・20日 〓とよたかずひさんと「子ども読書の日」ポスター打ちあわせ
- ☆21日 富士ファイルムビジネスインベションジャパンとPC入れ替えについて打ちあわせ
- ☆27日 「こどもの読書週間」ポスター 責了
- ・27日 〓上野の森親子ブックフェスタ2024」について出版文化産業振興財団と打ちあわせ
- ・27日 〓上野の森親子ブックフェスタ2024」について講談社広報室と打ちあわせ
- ・28日 〓ひろ美術館・東京「あれこれのち」展覧会 出席

●編集部 & 事務局の
ひとこと

●2024年は子どもの本に関する多くの団体が、創立50周年の節目を迎えます。巻頭言をいただいたJB BY、子ども文庫助成事業の伊藤忠記念財団そして東京子ども図書館。来月ご紹介しますが、いわさきちひろさんの没後50年でもあります。それぞれ記念事業・行事が計画されており、子どもの本が話題にのぼる一年になりそうです。

●当会の野間読書推進賞受賞者にも、この数年で創立50周年を迎える団体が複数あります。団体設立までには準備期間がありますから、1960年代〜70年代はじめにかけ、子どもの読書に対する関心、活動のうねりが全国的に草の根、図書館、出版各方面で高まってきたことを実感します。今年、第66回の「こどもの読書週間」もその流れの一端を担っていたと思います(思いた)。

●この長い期間、子どもに本を手渡してきた人たちが全国各地で活躍している。その継続する力は、子どもたちの心におはなしや本が届き、子どもたちの心が動いたときの感動を目の当たりにする喜びがもたらしているのではありません。

●本号で紹介した青少年読書感想文全国コンクール 最優秀作品受賞の藤野結大さん。中村哲さんの生き方と、昨年5月の珠洲地域の地震での体験を結びつけた受賞作を表彰式で朗読しました。1月の能登半島地震でさらに大きな被害を受けた藤野さんの朗読からは凛とした力強さが伝わってきて、子どもと本の出会いの美しい結晶のようでした。(伸)